

令和5年8月14日

各位

大阪府中央区瓦町三丁目5番7号  
株式会社アドバンスクリエイト  
代表取締役社長 濱田 佳治  
(コード番号: 8798 東証プライム、福証、札証)  
(連絡先) 総合企画部長 笠井 俊一  
電話 06-6204-1193

人とテクノロジーを深化させ進化する会社

## 2023年9月期第3四半期決算に関する主なご質問

Q1. 通期で赤字予想となった主な理由は

A1. 円安による外貨建保険の解約、失効の増加に加え、株高などを背景とした貯蓄性保険の解約、失効の増加等により、解約率が想定を上回って推移したことが主な要因です。当社は新会計基準を適用し、将来発生手数料をストラクチャードファイナンス（債権流動化）により正味現在価値（PV）を算定し、売上として計上しております。解約率が想定を上回ったことにより、過去に売上として計上していたPVも算定しなおし、貸し倒れが発生した時と同様に、当第3四半期で売上から差し引いた（戻入）ため、売上の減少要因となりました。

また、再保険事業が第1、第2四半期に赤字となったことも減益要因の一つです。

費用におきましては、戦略的な成長投資を積極的に実施したことにより増加いたしました。特に、期初よりアポイント獲得を強化するため、コールセンター強化とデジタルプロモーション戦略に投資し、アポイント件数は増加したものの、お客様とつながるツールが電話からテキストへ変化したことから、人的コストとデジタルプロモーション戦略のマーケティングコストの重複期間が予定より長引き、費用の増加を招いたため、利益の減少要因となりました。

Q2. 解約率の増加による影響額は

A2. 解約率の増加による影響の具体的な金額は開示しておりません。今回発表した業績説明資料7ページで概算額をグラフでお示ししておりますので、ご参照ください。

Q3. 来期（2024年9月期）の見通しは

A3. 来期の業績予想はまだ公表しておりませんが、今回想定を下回って推移した解約率よりも保守的に解約率を見積もり、売上の戻入等の不確実な要素を低減させることで、解約率上昇による影響は今期で収束することを見込んでおります。また、デジタルプロモーション戦略の効果等により、アポイント数は2021年9月期、2022年9月期と比べ大幅に増加しており、当社のファンダメンタルズは力強さを増していることから、来期の業績は当期よりも改善すると見込んでおります。

Q4. 株主配当、株主優待は変更するか

A4. 来期の業績が当期よりも改善する見通しであることに加えて、当社は株主に対する安定配当を重視しているため、配当予想について変更はいたしておりません。株主優待についても変更する予定はございません。